

作物名：いちご

病害虫名：輪斑病（病原：*Dendrophoma obscurans*）

1 被害の特徴と診断のポイント

- 葉、葉柄及びランナーに発生する。
- 葉では初め紫褐色、不整形の小斑点を生じ、拡大するにつれて中心部は壊死して、紫褐色となる。病勢が進展すると病斑は明瞭な輪紋状となり、周囲は紫褐色、内部は灰褐色となり、破れやすくなる。葉縁に病斑が進展すると、くさび形的大型病斑となって、葉は枯れ上がる。古くなった病斑上には小黑粒点（柄子殻）をまばらに生ずる。
- 葉柄やランナーには、炭疽病の病斑に似た赤紫色の浅くくぼんだ病斑を生じ、その周囲は軸に沿って長く赤変する。
- 育苗床における斑点性病害の多くが本病である。



写真1 葉の病徴（斑点症状）

2 伝染源・伝染方法

- 本病菌は被害葉上の柄子殻で越冬し、翌年に柄胞子を飛散して一次伝染する。
- 葉や葉柄、ランナー病斑上の柄子殻から噴出する柄胞子が、風雨によって飛散し二次伝染する。

3 発病しやすい条件

- 本病菌は糸状菌の一種で不完全菌類に属する。菌の生育適温は 28~30℃で、病斑上には黒褐色、球形で徳利形の柄子殻を形成する。
- 梅雨期の後半から9月にかけての気温の高い時期に風雨によってまん延する。

4 防除方法

- 被害葉の病斑が二次伝染源となるので、発病葉はみつけしだい取り除き適切に処分する。
- 窒素不足や草勢低下によって発生しやすくなるので、適正な肥培管理を行う。
- 育苗中は多湿とならないよう苗の間隔を広げたり、不用な下葉を整理するなど通風をよくする。

5 出典

(1) 参考文献

- 日本植物病害大辞典（全農教）
- 農業総覧原色病害虫診断防除編2-②（農文協）
- 農業総覧病害虫防除・資材編2（農文協）

(2) 写真

- 宮城県病害虫防除所撮影



写真2 葉の病徴（縁枯れ症状）